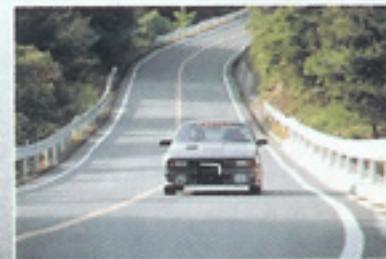


カーボーイ 7月号



ストップウォッチを押した瞬間にツインブレートのクラッチをラフにつなぎ、山頂の駐車場から、オレのセリカXX-I G-Gターボはフル加速した。

20mほどの間に、たちまちフルブースト状態にはいったDOHC4バルブターボは、1速を瞬時に使い果たし、2速、そして3速と、下りのワインディングロードを猛烈な加速のまま、中速コーナーに突入する。この信貴・生駒スカイラインは夜間は無料になるので、走り屋連がビンビン集まつてくる。気合のはいつたマシンがタイムを競い合ながう、S字コーナーでのマシンコントロールに夢中になる。

この信貴・生駒スカイラインに入る前の坂急道路は一方通行のハイスピードコースだが、走り屋連中の人は気は、なんてつたつて、頂上の遊園地横の駐車場から下りのワインディングの速さを競うこと。

オレのI-G-Gターボは、ブーストセッティングを $-1kg/cm^2$ にセットしてある。こいつをフルに使いこなすには、またもうすこし時間がかかる。2速と3速をすばやく使いつながら、複合コーナーを、有効バーバンドを外さないようにラインを逃さず。

コーナリングは、アプローチで姿勢をハッテリきめて、素直にクリアする。ゆっくりドライブすれば、景色はグンバツだし、リズミカルにステアリングを切り込んでいけばメチャ気持ちいいんだろうけど、下りのブラインドコーナーにターボ加速で突っ込んでいくと、心臓が喉元までせり上がりてくる。

こいつを息をのんでこらえ、ブレーキングポイントまで我慢しているのは、何度も、このコースを走り込んでも慣れないからだ。

下りの料金所が見えるまで数え切れないほど心臓をハンドさせ、アクセルを戻し、ブレーキランプをつけたとき初めて、思わず深呼吸をしている自分に気がついた。バケットシートに押し付けられていた背中は、うつすらと汗ばんでいた……。

S字を2速でクリアすると、壁にはり付いたマシンがあった。限界を超えるな！自分にいきかせながらも、ついアクセルを踏む右足に力がはいる！



コーナーを一気に攻める！